

# 市民文芸

## 短歌

令和七年度第五十四回  
阿南市秋季短歌大会 選

### 特選

捻りたる蛇口はどちらも湯の温度この単純に戸惑  
う酷暑  
廣瀬 艶子

ハンデある左のグローブ持ち替えてバックホーム  
の岐阜商球児  
青木 弘子

わが夫の自慢の料理は餃子なりタタタタタンと葱  
きざみおり  
森田 道子

入院の夫の腕の痩せ細り点滴確かに落つるを見つ  
めん  
森 ゆき子

デイに来て一生懸命する人とそうでもない人人生  
模様  
長尾 久子

鳳仙花はじけるあしたキャンパスに戻りゆく子を見  
送れば秋  
金本ひろみ

走り梅雨小止みになるを見定めて山師の我は鋸の  
歯を研ぐ  
森尾 光一

木漏れ日に映える玉砂利踏みてゆく京の尼僧はレ  
ースの日傘  
横山みつ枝

イントロで昭和が見えるあの頃が美空ひばりの  
「りんご追分」  
佐野 幸子

一〇〇年は生きてたであろう杉の木に止どめの斧を  
樵の我は  
森尾 光一

葉の陰に曲がりて垂るる末生りにたつぷり水遺る  
終戦記念日  
井上 京子

父母に子が引き継ぎし米作り高く売りたい田んぼ  
の叫び  
長尾 久子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

冬ざれの松影落とす番外寺

東條 明宏

絵手紙の元氣ですかと柚子笑ふ

東明 陽子

湯気煙籠の木登る大根焚き

張本 雅宣

冬花火闇を押し上げ二万発

柏木 暁代

三が日に籤の花盛り

駒木 幹正

女正月ピンクの服を勧められ

吉崎 晶子

冬耕す留学生にはげまされ

金本ひろみ

池小春泥巻き上げて泳ぐ鯉

田中 栄子

着ぶくれの老女の会話長々と

近藤ヤス子

山茶花や陽を追って干すスニーカー

岡久 玲子

## 川柳

阿南川柳会 選

裏表干しても乾かない心

神野 鈴代

待ちわびた歌劇見ながら舟を漕ぐ

篠原 良子

老いをまた笑い話にして弾む

高木 旬笑

控え目に生きております九十四

西田 修身

お年玉曾孫の来る日二重丸

野村 敏子

首どこと探すセーターハイネック

橋本 征介

首の皺ネックレスよと笑わせる

若木アヤ子

スーツから野良着に変えた父の汗

渡邊ろまん

### 一般応募

早々に春に目覚める露の臺

島尾美津子

凡ミスも笑っているが三度まで

武田 敏子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

### 故郷

湯沐那川余八旬

吉形 和恵

鴨浮魚躍水郷瀨

那川に湯沐して八旬を余す  
鴨は浮き魚は躍る水郷の瀨

風情裕処長閑景

風情裕かなる処 長閑の景

懐旧堤塘走二輪

懐旧の堤塘 二輪を走らす

### 水仙

雪花春未犯寒開

田中 公

自有清香異色催

雪花春未だしに寒を犯して開き  
自ずから清香有りて異色催す

苑地無縁生草莽

苑地は縁無く草莽に生く

風姿凜凜白皚皚

風姿凜凜 白皚皚

### 立春の俣

節値立春光景圓

高橋 静雄

風和日暖早鶯天

節は立春に値り 光景円かに  
風和み日暖かし 早鶯の天

吟魂曳杖梅開處

吟魂杖を曳く 梅開く処

一白花前忘世縁

一白の花前 世縁を忘る

